

**日本の平和構築支援**  
- 「平和国家日本」の新たな旗印 -

2006年11月1日  
外務省国際平和協力室長・紀谷昌彦

**1. はじめに**

(1) 日本にとって、なぜ平和構築か？

- ・ 安全保障（政治的安定、テロ対策、エネルギー確保等）に加え、
- ・ 普遍的利益の実現（平和国家・明治以来の経験を活かし国際秩序形成に参画）

(2) 3つの公約（麻生外務大臣政策演説）

- ・ 人材育成、知的リーダーシップ、現場の強化

**2. 知的リーダーシップ 平和構築へのアプローチの改善**

(1) 基本的考え方

- ・ 全ての紛争は異なる 「手作り」の対応
- ・ オーナーシップ：平和・人道から開発に移行する中で強化
- ・ パートナーシップ：支援メニューを拡充し、統合戦略で活用
- ・ 平和構築＝平和の定着（治安の確保、政治ガバナンス・体制移行、コミュニティ復興・社会経済開発）と国づくり（持続可能な体制へ）
- ・ 日本は独自の付加価値を提供し平和構築に貢献、今後更に知見を整理・発信

(2) 4つの柱（今後更に整理・改善）

(イ) 治安の確保（全ての基本）

- ・ 国連PKO・多国籍軍などによる国内の安定・治安の確保
  - ・ 地雷対策・不発弾処理、小型武器回収、DDR、PRTも
  - ・ 治安部門改革（警察・司法など文民の役割の増大）
- 法の支配、地雷・小型武器、経済開発との連携で、日本は大きな貢献が可能

(ロ) コミュニティの再建・人間の安全保障（草の根レベル）

- ・ 草の根の和解を促進
  - ・ エンパワメントを通じた自立促進
  - ・ 様々な支援をコミュニティの視点から統合
  - ・ 平和と開発のギャップを埋める鍵となるアプローチ
- 人間の安全保障というアプローチは日本が強く提唱、これを更に普及

(ハ) 和平・体制移行・国家の再構築（政府レベル）

- ・ 調停・仲介を通じた和平プロセスの促進
  - ・ 正義と和解による団結と国家アイデンティティの再構築
  - ・ 制度（憲法等）とプロセスの双方に配慮、選挙支援も、望ましい形を探究
  - ・ 政府の能力強化、政府サービスの提供
  - ・ 現地を尊重、ローカル・リソース活用の重要性
- 日本は現地の人たちに耳を傾け「国づくり、人づくり」をする点に強み

(二) 平和に資する経済開発（持続可能に）

- ・ 早期に「平和の配当」を提供 - 社会的弱者に配慮し社会の安定を実現
- ・ 雇用対策の重要性
- ・ 経済インフラによる下支え（様々な活動の基盤に）  
円借款の活用やビジネスとの連携など、自立に向けて日本の特色を生かす

(3) 日本国内の知見・リソースを活用

- ・ シドニー演説、国際平和協力懇談会、人材育成検討会
- ・ 「紛争と開発」に関する日本からの行動、ODA 大綱、ODA 中期政策
- ・ 国・地域毎の復興開発・平和の定着会議等
- ・ JICA 平和構築支援・課題別指針、JBIC 政策研究
- ・ 防衛大綱（本来任務化）
- ・ 警察庁・国際協力推進要綱

(4) 積極的な対外発信

- ・ 平和構築委員会（平和構築基金にも拠出）
- ・ 国連諸機関、世銀、OECD・DAC、G8 プロセス（安定化と復興）等
- ・ 総論・分野別のみならず、国別・地域別の文脈も

**3. 現場の強化 国別・地域別の政策・実施の強化**

(1) 取組の方向性

- ・ 平和構築の現場での具体的なインパクト実施が何よりも重要
- ・ 成果・教訓を政策にフィードバックするプロセスを確立
- ・ 現地 ODA タスクフォースを中核とした国別政策の強化
- ・ 多様なスキームの活用と一貫性の確保（PKO から ODA まで）

(2) 具体的事例の蓄積

- ・ 東ティモール
- ・ ミンダナオ
- ・ アチェ
- ・ スリランカ
- ・ アフガニスタン（「平和の定着」東京会議（2006年7月））
- ・ イラク
- ・ パレスチナ
- ・ レバノン
- ・ ボスニア・ヘルツェゴビナ、コソボ
- ・ TICAD（「平和の定着」会議（2006年2月））
- ・ AU の取組（AU 平和基金等）
- ・ スーダン
- ・ 大湖地域（コンゴ（民）、ブルンジ、ルワンダ、ウガンダ等）
- ・ モザンビーク
- ・ シエラレオネ
- ・ リベリア 等

#### 4 . 人材育成 日本とアジアから世界に貢献

##### ( 1 ) 新たなイニシアティブ

- ・ 麻生外務大臣政策演説「平和構築者の『寺子屋』を作ります」(2006年8月)
- ・ 国際平和協力懇談会・人材育成検討会を踏まえて大幅強化
- ・ 日本人とその他のアジア人の双方を対象に平和構築分野の人材育成
- ・ 日本・アジア・世界の最先端の知見を集めて相乗効果を実現

##### ( 2 ) 意義

- ・ 国際会議と紛争国の現場の双方で平和秩序形成に参画
- ・ アジアの地域協力に加え、アジア・アフリカ協力など南南協力の次元も
- ・ 日本の国連外交の観点からも重要(平和構築委員会等)

##### 【参考】

- ・ 麻生外務大臣政策演説「平和構築者の『寺子屋』を作ります」(2006年8月)  
[http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/enzetsu/18/easo\\_0829.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/enzetsu/18/easo_0829.html)
- ・ 外務省・国際平和協力  
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/pko/index.html>
- ・ 平和構築フォーラム・文献案内  
<http://www.peacebuilding.jp/bibliography.htm>
- ・ kiya.net 寄稿・発表及びブログ  
<http://www.kiya.net/>

(以上)